


## ワクチン接種


海外旅行の際は、以下を強くおすすめします：

- フランスで推奨されているワクチンを接種し、有効期間内であること。
- 行き先の地域で流行している感染症の対策をすること。


以下に、主な病気、リスクのある地域、必要なワクチンについての情報を示します。


 麻疹


 黄熱病


 デング熱


 ジフテリア 破傷風 ポリオ


 B型肝炎

 腸チフス

 脳脊髄膜炎

 B型肝炎

 ダニ媒介性脳炎

 狂犬病



## 麻疹

### リスクのある地域

特に、アフリカ、インド、中国、東南アジア諸国（フィリピン、日本、香港、マカオ、韓国、シンガポール）ですが、現在、ヨーロッパ、サモア諸島、ニュージーランド、オーストラリアでも流行しています。

多くの国で流行中であることを鑑みて、麻疹ワクチン接種を**すべての旅行者に推奨**します。フランスでは、2018年1月1日以降に生まれた子供に対して義務付けられています。

### 病気の特徴：

麻疹は、急性のウィルス感染症です。月齢5～6ヶ月から感染のおそれがあります。

麻疹は重篤で伝染性の非常に高いウィルス性疾患です。

麻疹ウィルスは空気感染します（空気中に浮遊した唾液の飛沫）。また、感染者の鼻または喉の分泌物との接触でも感染します。このように排出されたウィルスは、閉ざされた空間内（病院など）10、物体や環境表面上において、30分～最大で2時間にわたって感染力を維持します。

麻疹ウィルスの接種は、特に脳炎などの重篤かつ致命的な感染合併症を防ぐため、1歳前後の子供に推奨されています。

### 旅行者への推奨事項：

旅行は、麻疹ウィルスへの暴露のリスク、また、ワクチン未接種の人々や脆弱な人々へ病気を伝染させるおそれを高めます。麻疹を予防するには、1ヶ月以上の間隔をおいて2回ワクチンを接種することが必要です。

### ワクチン接種：

麻疹および致命的な合併症のリスクが最も高いのはワクチン未接種の小さな子供です。

子供への麻疹ワクチン接種は、フランスでは2018年1月1日以降義務付けられています：

- 1回目のワクチン接種は月齢12ヶ月（共同生活の場合は月齢9ヶ月）。
- 2回目のワクチン接種はフランスにおいては月齢13ヶ月～24ヶ月（共同生活の場合は月齢12ヶ月～15ヶ月）。

特定の免疫グロブリンの持続性の測定に基づく計算によれば、免疫は数十年間以上、おそらくはさらに長期間続きます。



## 黄熱病

### リスクのある地域：

黄熱病ワクチン接種は、アフリカまたは南米の熱帯地域へ行く旅行者が対象であり、出発の10日以上前に行う必要があります。認定ワクチン接種施設でのみ接種可能です。卵に対する真正アレルギー、特定の疾患または治療、月齢6ヶ月未満の乳児に対しては禁忌となります。1回の接種で10年間有効です。このワクチンは最初の接種の10日後から（追加接種の場合は即時）有効であり、国際予防接種証明書への記入の対象となります。国際予防接種証明書はワクチン接種の証明となり、特定の国への入国の際に求められる場合がありますので、保管してください。

リスクのある国のリストについては[こちら](#)をクリックしてください。

### 病気の特徴：

蚊によって媒介されるウィルス性疾患であり、報告された症例の80%が死に至ります。高熱に加えて、出血や重度の黄疸（皮膚の黄変）を引き起こす可能性があります。

### ワクチン接種：

黄熱病ワクチン接種は、黄熱病の感染リスクのあるアフリカまたは南米の国からの1歳以上のすべての旅行者、ならびにトランジットでこれらの国の空港に12時間以上滞在した旅行者に義務付けられています。

このワクチンは出発の10日以上前に接種する必要があります。

このワクチンは、1回の接種で一生有効です。

一部の国では、入国前10年以内のワクチン接種を求められる場合がありますのでご注意ください。出発前に行き先の国の領事館にご確認ください。

妊婦または授乳中の女性、月齢6～9ヶ月の子供、卵アレルギーの人、コルチコイドを投与されている人、免疫不全の人には禁忌であり、個別の判断が必要です。



## デング熱

### リスクのある地域：

世界のデング熱の罹患率は、過去数十年で劇的に増加しています。世界人口のおよそ半分がリスクに晒されています。

デング熱は世界中の熱帯および亜熱帯地域で発生し、都市部および準都市部で多く見られます。

### 病気の特徴：

デング熱は蚊によって媒介されるウィルス性疾患です。

感染するとインフルエンザ様の症状を引き起こし、重症型デングと呼ばれる致命的な合併症に発展するおそれがあります。

以下のうち2つの症状を伴う高熱（40° C）がある場合、デング熱を疑います：激しい頭痛、眼窩後部、筋肉、関節の痛み、悪心、嘔吐、リンパ節腫脹または発疹。症状は、感染した蚊に刺されてから4～10日間の潜伏期間を経て現れ、通常2～7日間続きます。

### 対策：

サノフィパスツールがデング熱ワクチンを発売すると考えられています。アジアとラテンアメリカで行われた臨床研究の結果は芳しいものでした。しかしながら、まず、リスクの高い流行地域の住民がこのワクチンの対象とされています。旅行者に対するこのワクチンの接種はまだ行われていません。

現在取りうる対策としては、流行地域における媒介動物である蚊の駆除、蚊に刺されないようにする各自の防衛が挙げられます。



## ジフテリア 破傷風 ポリオ

すべての旅行者は、行き先にかかわらず、ジフテリア・破傷風・ポリオ（dTP）のワクチン接種の有効期間内かどうかを出発前に確認しなければなりません。

### 病気の特徴：

- **ジフテリア**は、唾液によって伝染する細菌感染症です。 激しい扁桃炎が現れ、合併症として時に致命的な呼吸麻痺を起こします。
- **破傷風**は、土壌、物体、棘によってできた傷に細菌が感染することによって引き起こされます。 感染により重度の筋肉拘縮が引き起こされ、呼吸が妨げられ死に至る可能性があります。
- **ポリオ**はウィルスが原因で引き起こされ、汚染された水や食物の摂取、水遊び、または感染者への接触で感染します。 様々な重篤度の麻痺を特徴とするこの疾患は、今も一部地域に見られます。

### ワクチン接種：

フランスおよびフランス領ポリネシアにおいては、すべての子供にワクチン接種が義務付けられています。

成人に関しては、ジフテリアトキソイドを減量したジフテリア・破傷風・ポリオ（dTP）ワクチンの再接種が特定の年齢において行われ、これは25歳、45歳、65歳で行うことが推奨されています。 65歳以上では、75歳、85歳…といったように10年おきに再接種が推奨されます。

百日咳抗原を減量した百日咳ワクチンの再接種を25歳で行うことが推奨されます（dTcaP）。



## B型肝炎

### リスクのある地域

A型肝炎は世界で最も多いウイルス性肝炎であり、感染のリスクは各国の衛生状態によって異なります。アフリカ、中東、アジア、およびラテンアメリカには、流行レベルの高い（流行が顕著）地域があります。先進国（北米、西ヨーロッパ、日本、オーストラリア）は、流行レベルの低い地域です。

### 病気の特徴：

A型肝炎または黄疸は、水、食料、不潔な手によるウイルス感染が原因で起こります。

消化器症状と黄疸（皮膚の黄変）を引き起こし、合併症のおそれもあります。

### ワクチン接種：

A型肝炎の予防には、ワクチン接種が最善です。ワクチンは特に有効かつ効果が長く、1歳から接種可能です。

この疾患に感染した人は、終生免疫を獲得します。

- 最初の接種は出発の2～3週間前に1回行い、
- 再接種を6～12ヶ月後に1回行います。再接種は、種類によっては最初の接種の3～5年後まで行うことができます。

### より詳しくは：

▶ [WHOのWebサイト](#)

▶ [フランス衛生監視研究所（InVS）のWebサイト](#)



## 腸チフス

### リスクのある地域

この疾患は先進国ではほぼ見られませんが、アジア、アフリカ、ラテンアメリカの途上国においては今も多く発生しています。

また、ギアナ、マイヨット島においても腸チフスは流行しています。衛生状況の劣る地域で発生しています。

### 病気の特徴：

汚染された水または食物を摂取することで感染します。高熱から始まり、深刻な消化器系、心血管系または神経系の合併症に発展するおそれがあります。腸チフスは非常に強い感染力を持ちます。

### ワクチン接種：

流行地域（アフリカ、南アメリカ、アジアなど）への渡航や、衛生状態の劣る国に繰り返し滞在する場合に、予防接種が強く推奨されます。

腸チフスの予防接種は1回、出発の3週間以上前に行われ、3年間有効です。

このワクチンは2歳から接種可能です。



## 脳脊髄膜炎

### リスクのある地域

髄膜炎菌性髄膜炎は、いくつかの症状の集合体として季節変動とともに世界中で散発的に発生し、流行性細菌性髄膜炎の一部を占めています。

髄膜炎菌性疾患は、サハラ以南のアフリカでセネガルからエチオピアまで東西に広がる「髄膜炎ベルト」と呼ばれる地域で最も深刻です。

侵襲性髄膜炎菌感染症の流行状況は[WHOのWebサイト](#)で確認可能です。

### 病気の特徴：

髄膜炎の症状は、発熱、首のこわばり、頭痛、光過敏、嘔吐であり、ときに発疹を伴うことがあります。乳児では、特徴的な症状はなく、発熱のみであり、時おり痙攣または嘔吐が見られます。髄膜炎を引き起こす細菌にはさまざまなものがあり、年齢や生活条件によっても異なります。当然ながら、原因菌によって治療も異なります。

**ウイルス性髄膜炎**は、たとえばおたふく風邪の後に比較的よく見られますが、軽症であることが多いです。

一方、**細菌性髄膜炎**は非常に重篤であり、速やかに抗生物質による治療が必要です。

### ワクチン接種：

行き先の地域で**流行**がある場合には、すべての渡航者にワクチン接種が推奨されます。

複数のワクチンが存在します。医師に相談してください。





## B型肝炎

### リスクのある地域

アフリカ、アジア、アメリカ、オセアニア、ヨーロッパ

### 病気の特徴：

B型肝炎ウイルス（HBV）は、肝臓を冒すウイルス感染症です。

新規感染者の大部分は何の症状也没有せん。ただし、一部の感染者は、皮膚や目の黄変（黄疸）、着色尿、極度の疲労感、吐き気、嘔吐、腹痛といった、数週間にわたる症状を伴う急性症状を呈します。

### ワクチン接種：

B型肝炎のワクチン接種は、年齢や行き先にかかわらず、すべての渡航者に強く推奨されます。

最初の接種は、1ヶ月空けて2回行います。

再接種は、6～12ヶ月後に行います。

このワクチンは月齢2ヶ月から接種可能です。



## 狂犬病

### リスクのある地域

アジア、アフリカ（北アフリカを含む）、南米

### 病気の特徴：

狂犬病は、感染動物（噛まれたり、傷をなめられるなど）によって伝染するウイルスによって引き起こされる神経系の感染症であり、多くの場合犬ですが、すべての哺乳動物が保菌者になる可能性があります。感染は脳の炎症を引き起こし、すみやかに治療しない限り致命的です。

### ワクチン接種：

感染が疑われる場合、予防接種を受けていない患者は、狂犬病センター、国際ワクチンセンター、または大都市圏の医師によって、できるだけ早く治療ワクチンの接種を開始する必要があります。

流行地域に1ヶ月以上旅行するすべての渡航者、特にトレッキング、キャンプ、ハイキングを行う渡航者に予防接種が推奨されます。

**3回接種**1回目の接種から1週間後に2回目を、続いて2～3週間後に3回目（0日目、7日目、その後21または28日目）という間隔で行います。

予防接種を受けた場合でも、咬傷やひっかき傷がある場合は、狂犬病センターで追加の注射を受ける必要があります。



## ダニ媒介性脳炎

### リスクのある地域

**ヨーロッパ**：フランス、ドイツ、オーストリア、エストニア、フィンランド、ラトビア、リトアニア、ポーランド、チェコ、ヨーロッパロシア、スロバキア、スロベニア、スウェーデン、スイス

**その他の国**：北欧および東欧諸国、イタリア、アルメニア、中国の北部および東北部、韓国、日本、中央アジア、アジアロシア

農村部や森林地域でより多く発生しています。

流行期間は春から秋までです。

### 病気の特徴：

ダニ媒介性脳炎は温帯の国々で発生する神経系疾患です。マダニに刺されることによって感染するウイルスによって引き起こされます。インフルエンザ様の症状（中等度の発熱、悪寒）が現れ、まれに脳の炎症が合併することがあります。

### ワクチン接種：

妊婦と1歳未満の子供を除いてすべての人に接種可能です。

**3回接種**：ワクチンの種類により、最初の2回を1～3ヶ月空けて行い、その5～12ヶ月後または9～12ヶ月後に3回目を行います。

ウイルスへの再度の暴露が考えられる場合、再接種を3回目の接種から3年後に行います。

**速やかに免疫獲得**が必要な場合、より短期の接種計画（2～3週間）を採用することができ、その後5～12ヶ月後に再度接種します。